



豊 中 市 教 育 セ ン タ ー

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

T E L 0 6 - 6 8 4 4 - 5 2 9 0

F A X 0 6 - 6 8 4 0 - 8 1 2 7

平成 23 年 (2011 年) 7 月 20 日 第 50 号

## 子どもを守る危機意識

私たちは、日々子どもたちの健やかな成長を願い教育活動を行っています。その達成のためには、家庭・地域・学校においても、まず、子どもたちが安心して安全な生活を過ごせることが何よりの基盤となります。しかし、学校においても、時には様々な危機が発生します。

たとえば、東日本大震災のような多くの子どもが同時に危機にさらされる自然災害や、附属池田小学校でおきたような子どもが犯罪に巻き込まれる痛ましい事件などは重大な危機と言えます。また、学校内外で起きる予期せぬ事故や、教師による体罰セクハラ、日々の学校生活の中で起きる子ども同士のトラブル・いじめ、なども学校で生じた危機だと考えます。

子どもを取り巻く私たち大人は、子どもの身の回りに起こっている事態や危険性に、いち早く気づく敏感な感性と、起こった事案に対しての判断力、迅速で適切に対応する力が求められます。早期発見、早期対応を行うためにも、まず、普段から子どもの行動をよく観察し、日々の様子を把握しておくことが必要です。そうすることで、子どもの様子がいつもと少し違うという前兆に気づき、「何か変だぞ。」と感じたそのタイミングを逃さないで対応することができるからです。

しかし、日ごろから様々な配慮を行っていても、多くの子どもたちが生活する中で、トラブルが起こる場合もあります。もし、学校で危機が発生したら・・・。

自分ひとりで何とかしようと思わず、組織の一員として、最悪を想定し、慎重かつすばやく対応しなければなりません。状況を的確に判断し、アセスメントするための事実確認や、情報の収集・共有など、適切な対応プランを立てるためにも重要で迅速な行動が求められます。すばやい対応は、被害の拡大(二次的被害、風評被害など)を防ぐとともに、学校としての誠意や信頼関係にも深くかかわるところとなります。

「備えあれば憂いなし」と言います。学校の中での危機対応の備えとして、マニュアルも必要です。しかし、それ以上に、敏感な危機意識や、子どものことを考えた鋭い人権意識をもって日々対応を行うことが、危機を回避する大切なポイントになると思います。危機管理は危機を危機と感じたときに始まると言われる。多忙な日々を追われた中でも、子どもたちを守るための大切な危機意識は持ち続けたいものです。(大屋)

### 【危機管理のさしすせそ】

**さ**…最悪を想って

**し**…慎重かつ

**す**…すばやく

**せ**…誠意をもって

**そ**…組織で取り組む

# 豊中市研究協力員

平成5年（1993年）から個人研究を中心に進めてまいりましたが、平成15年（2003年）から教科・領域研究にシフトしました。

平成23年度（2011年度）は14教科・領域において47人の先生方のご協力のもと、「活用力」にポイントをおき、教科・領域にかかる研究を進めていただきます。

そのスタートとして、5月31日 豊中市研究協力員全体会において、

**奈良教育大学の 小柳和喜雄 教授** をお招きし、

**「活用力の育成をめざした研究および授業づくりとは」**

と題してご講義をいただきました。

以下、お示しいただいたポイントを抜粋します。

- ⇨新学習指導要領において、「習得」と「活用」と「探究」が問われている。
- ⇨「活用」の力を子どもたちにつけていくとき、教科を越えて「言語」をどのように位置づけているのか、そのことにどう注意を払っていくのかが問われる。
- ⇨クラスの状況や学校の組織的な取組などを考慮し、どういう形で焦点化すると一層めざす活用力に近づくのかイメージする。
- ⇨活用する力という前に、クラスの中で学習を支える基盤づくりが大事、児童生徒の日常生活に目をこらし、経験不足や語彙が少ないなど子どもたちの苦手なところから攻めていくこと。クラスの状況によって研究の視点が定まってくる。
- ⇨教育研究の手法
  - その①「この手立てはいつ、どの場面で誰に有効であるのか、どのような教育方法が有効であるか」「効果は上がっているのか」を問う。
  - その②「〇〇を使って教育活動を行おうとする事実」を問う。「教育は〇〇である」という回答の妥当性や確実性を吟味する問いであること。
- ⇨順接的な研究、逆説的な研究、発見、発明、開発的な研究があるが、いずれもその手立ての有効性を見るなら、子どもがどう変容したかを示すことが必要。
- ⇨出発点を明らかにしておかなければ変化は見えない。出発点をおさえた上で、実践を試みる。
- ⇨出発点が見えていて、改善が見える。それが普及につながり、他の先生方に伝えられることになる。
- ⇨研究のキーワードなど、インターネットのサイトから無料でダウンロードできる論文などを参考にすることもできる。

先生方が各校において研究を推進される場合にも参考にしてください。

小柳先生には、来年1月6日「研究協力員報告会」に再度お越しいただき、研究成果のご講評をいただく予定です。

## 7月・8月の教職員研修 ガイド

フレッシュ研修 実技教科（図工・音楽・体育・理科）の指導力アップを図ります。

ステップアップ研修 クラス運営・学級づくりに役立つ内容が満載。

ミドルリーダー研修 保護者対応・学校の活性化に妙案あり。

夏期教職員研修 淀工名誉教諭・吹奏楽部顧問 丸谷先生自身が子どもをとおして学ばれたことをお話ししていただきます。

課題別研修 学級、学校の課題に応じた研修。  
人権・教育相談・不登校対応・ICT・学校図書館教育・環境教育

教科領域別研修 授業づくりを中心に、豊富な内容を取りそろえています。  
国語・社会・算数・図工・生活科・総合的な学習の時間  
小学校外国語活動・中学校外国語・特別活動・技術・理科

この夏、少し余裕ができれば、教育センターでゆったりとした研修を受けてみませんか。

夏期休業中に研修を積んでリフレッシュを！

申込期間にかかわらず、教育センターにご相談ください。

## コンピューターウイルスにご注意を！

■ウイルス対策が十分でないご自宅のPCや、ネットカフェ等のPCからUSB経由でウイルスが持ち込まれるケースが依然として多いようです。

■ご自宅のPCについても必ずウイルス対策をしていただきますようお願いいたします。購入時にインストールされていたウイルス対策ソフトは、期限が切れていて十分に機能していないかもしれません。ご確認ください。

■個人使用のWindows PC向けに、マイクロソフト社が無償のウイルス対策製品を出しています。現在ご自宅のPCにウイルス対策をされていない場合、活用を検討されてはいかがでしょうか。（事前に動作要件等ご確認ください。）

セキュリティ エssenシャルズ

[http://www.microsoft.com/ja-jp/security\\_essentials/](http://www.microsoft.com/ja-jp/security_essentials/)

■学校のPCがウイルスにかかってしまった場合は、

- ① LANからの切断（LANケーブルを抜く、無線スイッチをOFF）
- ② ウィルス対策ソフトでスキャンしてウィルスファイルを隔離、削除
- ③ 報告書（コンピューターウイルス 届出様式）の提出
- ④ 教育センターにウィルスの検索・駆除が簡単にできるツール（ワクチンUSB）があります。

学校からのご要望に応じて貸し出しも可能です。



気になる子どもへの支援のヒントより

## 落ち着きのない子 ー保護者編ー



夏休みを間近に控え、1学期の様子を保護者と話し合う機会が多い時期ではないでしょうか。前回号に登場したAさん、いつもよく動き回って教室の外に出ていくこともあるようです。今回はAさんの様子を保護者にどのように伝えて協力関係を築いていけばよいかを考えてみたいと思います。

まず保護者はどのような人でしょうか。たとえば・・・

\*話す内容は？

例) 子どもの良くない面ばかりを話す

\*子どもの気持ちに目を向けることはできているでしょうか？

\*家では、どのような関わりをしているでしょうか？

例) いろいろな関わりを工夫して取り組んでいる。

例) 関わり方がわからないみたい。

・・・など



このような保護者にはどのような思いがあるのでしょうか？

Aさんのお母さんは以前からAさんの行動で学校から注意を受けることが多く、学校から話があると緊張していました。“間違っただけの子育てをしている”、“甘やかしている”と責められるのではないかと、思うようです。このような緊張を抱えたお母さんはAさんに対して過剰に厳しくなり、Aさんの良い面を認める余裕が持てなくなるようです。お母さんの不安や緊張を受け止めることが、Aさんの落ち着きにつながるかもしれません。

保護者を支援する手だてとして以下のことが考えられます。

- ①こまめに連絡を取る（トラブルの時だけでなく普段から）。
- ②子どもの良い面も伝える。
- ③保護者がイメージしやすい具体的なエピソードを伝える。
- ④保護者の苦勞を労う。
- ⑤学校や家庭でうまくいった方法を共有し、それぞれ具体的な支援方法を役割分担する。

子どもの成長を共に支えるという気持ちで保護者と協力関係を築いていくことが大切です。その上で、保護者と一緒に具体的なより良い支援のかたちを見つけていけるといいですね。（野村）

参考：『気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー』 P6, 7, 70～75

大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編 豊中市教育センター2009年3月発行